消防の広場

たんごの風　26号

119
火災・救急・救助

代表　62-0119
総務課　総務係　62-8119
管理係　62-8129
予防課　62-5119

あなたの家にも必要です
住宅用火災警報器

住宅火災による死亡原因の七割が「逃げ遅れ」によるものです。

火災による熱・煙を感知し、警報で知らせる「住宅用火災警報器」が、既存住宅を含む個人の住宅、共同住宅等にも設置を義務付ける消防法の改正が行われました。新築住宅は平成十八年六月一日から、現在既に建っている家は、京丹後市火災予防条例で定められた、平成二十三年六月一日から適用となります。

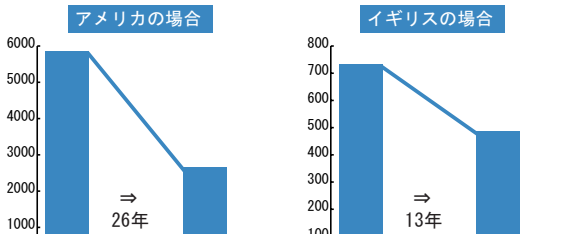
住宅火災による死者数は、建物火災の中で約九割を占め、住宅以外のホテル・旅館、百貨店等よりも五倍程度死者が発生しやすい状況となっています。

海外での効果

アメリカやイギリスでは、住宅用火災警報器等の普及率が高くなるにつれて住宅火災による死者数が減少し、住宅用火災警報器等の効果が大きいことが分かります。

アメリカでは一九七〇年代後半には火災により約六千人の方が亡くなっていたのに対し、二〇〇二年に住宅用火災警報器等の普及率が九四％になると、三千人弱とほぼ半減しています。イギリスにおいても同様の傾向が見られ、この二つの事例から住宅用火災警報器の普及が進めば、火災による犠牲者の減少に高い効果が期待できます。

右のグラフは、アメリカとイギリスの住宅用火災警報器等の普及率と亡くなられた方の数のグラフです。
縦が人数、横が年数、その下に普及率を示しています。



Q&A

Q 値段はどれくらい

A 機能・メーカーにより異なりますが、数千円から一万円前後です。

消火器などを取扱っている店舗に相談されるとよいでしょう。

Q どんな種類がありますか

A 熱式・煙式があり、それぞれ乾電池を使うタイプと家庭用電源を使うタイプがあります。家庭用電源を使うタイプは配線工事が必要です。（※コンセントを使うタイプは工事不要）

Q どんな製品を買えばいいの

A 煙式を購入してください。なお、住宅用火災警報器の規格を保証するものに、日本消防検定協会の鑑定があります。感度やブザー音量などが基準に合格したものには、日本消防検定協会の鑑定マークが付いています。購入の目安として左のNSマークが付いているものを選びましょう。

日本消防検定協会
NSマーク

Q どこに取り付ければいいの

A 寝室と、寝室が二階などの場合は階段にも設置が必要です。（寝室が一階だけの場合は、階段や廊下への設置義務はありません。）なお、本市では、早期発見、被害の軽減を図ることを目的とし、国の設置基準に加えて「台所」にも設置を必要としています。

Q 住宅用火災警報器を設置しなかったら罰則はあるの

A 罰則はありませんが、あなたや家族の命を守る大切な機器です。罰則の有無に関係なく設置していただくようお願いします。

悪質業者に注意

一般住宅には消火器の設置義務がないにもかかわらず、悪質な訪問販売が発生していることから、設置義務のある住宅用火災警報器では義務のあることを理由にさらに悪質商法が多発すると予想され、厳重な注意が必要です。

消防署から住宅用火災警報器の販売に住宅を訪問することはなく、特定の業者に販売を委託することもありませんので、業者の言葉や服装にごまかされないよう注意してください。

詳しい住宅用火災警報器の設置方法などのお問い合わせ

○ 京丹後市消防本部予防課
TEL0772(62)5119
または、最寄の消防署にお問い合わせください。

○ (財)日本消防設備安全センターより、住宅用火災警報器相談室が開設されています。
TEL0120(565)911
《フリーダイヤル》

京丹後市消防本部ホームページの 予防情報館もご覧ください　http://www.city.kyotango.kyoto.jp/kcfd/index.html

救急一口メモ

子どもの脱水症状

こんにちは、峰山消防署救急救命士の日下部です。

さて、今回は子どもの脱水症状についてです。これから寒く、乾燥してくると風邪をひきやすくなります。子どもは、発熱・下痢・おう吐などですぐに脱水症状をおこします。発熱や下痢は、体に入ってくる水分より、汗や便として出る量の方が多く、体内の水分が減ることで脱水症状が起こります。おう吐では、入ってくる水分が少ないのに、出て行く量は通常どおりなので、こちらも体内の水分が減り脱水症状となるのです。

救急救命士
くさかべ　のりひと
日下部　宣仁

大事なのは水分を与えることです。少量ずつ、何回にも分けて与えてください。何を飲ませたらいいかは乳幼児の場合は子ども用のイオン飲料がいいでしょう。水分だけでなく、体に必要な電解質を含んでいるからです。イオン飲料の嫌いな子どもは湯冷ましでも麦茶でも何でもかまいません。ただ、牛乳などの乳製品は、水分補給としてあまりお勧めしません。消化吸収に時間がかかり、胃腸への負担がかかるからです。水分をこまめに与え、脱水症状にならないように気をつけてください。